

# 早稲田 岳文広報

第五十八号

発行：早稲田大学岳文会OB会

発行日：平成26年7月

<http://ob.gakubunkai.com/>

## 2014年度 岳文OB会 行事計画

実施日	行事内容	集合場所・時間	担当者	申込締切
8月23・24日 (土・日)	現役夏合宿	上高地 小梨平キャンプ場 午後3時より	-	-
9月28日 (日)	文学散歩 横浜文学散歩第2弾	東急みなとみらい線 元町・中華街駅 13時	谷口 (18期)	9月23日 (火)
10月26日 (日)	文学散歩 本郷から小石川へ	地下鉄丸の内線 本郷三丁目駅 13時	轡田 (12期)	10月23日 (木)
11月9日 (日)	ハイキング 湘南アルプス	JR東海道本線大磯駅 11時30分	田村 (14期)	10月31日 (金)
11月22日 (土・予定)	総会	詳細は次回の広報に記載		
<b>共通ルール</b> ①ハイキングは、昼食（お弁当）、行動食、装備など各自準備ください。 ②日程は、変更、中止があります。参加の場合は、事前に必ず連絡願います。 ③ご家族、友人、現役の方の参加も大歓迎です。				

### ハイキング

#### ◇高麗山から湘南平へ（湘南アルプス） -歴史ある高麗山から絶景の展望 そして大磯の散策-

- 日時 11月9日（日）
- 集合場所 JR 東海道本線大磯駅改札口
- 集合時間 午前11時30分
- 申込締切 10月31日（金）
- 申込先 14期 田村まで  
・携帯  
・メール
- 持物 雨具 昼食 水筒 タオル  
その他必要と思われるもの
- 費用 交通費 2,288円  
(JR 東海道本線東京～大磯間往復)  
懇親会費 2,500円程度
- 雨天の場合 現地の降水確率で50%を超えたときは  
中止とする
- コース 大磯駅(30分) 高来神社(20分) 高麗山(5分) 八俣山(15分) 浅間山(10分) 湘南平(15分) 楊谷寺横穴墓群(20分) 大磯駅前(5分) 地福寺(5分) 新嶋襄終焉の地(10分) 嶋立庵(7分) 島崎藤村旧宅(5分) 大磯駅  
歩行2時間27分

東海道本線の平塚駅を過ぎると間もなく、貨物ヤードの向こうにこんもりとした緑の山が見えて来る。これが高麗山である。安藤広重の「東海道五十三次 大磯虎ケ雨」にも描かれ、奈良時代にこの山側一帯に高句麗からの渡来人が居住し集落を作ったことから「高麗山」の名前がついたと言われている。車窓にひろがる緑の風景をながめているとまもなく大磯駅に着く。江戸時代には東海道の宿場町として賑わい、明治になってからは日本最初の海水浴場、そして政財界等の各界の名士の邸宅が建ち並んだ避暑地として賑わった所である。瀟洒な大磯駅の駅舎を出て左手を緩やかに下って行くと国道1号と出会う。左手に曲がりしばらく行くと旧東海道松並木の道への分岐がある。道の両側の松並木を見ながら行くとやがて化粧坂で再び国道1号と合流する。少し行くとやがて高来神社の参道が左手に見えて来る。鳥居をくぐり、石段を登ると高来神社の社である。参拝をすませ右手奥に回ると登山道入口の標識がある。今回は右側の女坂から高麗山山頂をめざす。階段状の登り道を鬱蒼とした大木が包み込んで、神聖な山を登っているという雰囲気になる。スダジイ、タブノキなどを主体とする南面は県の天然記念物となっている。やがて石の階段が現れ、それを登りきると広い空き地が眼前に広がる。ここが高麗山山頂(168m)である。奥の方にはかつての上社跡の礎石が残っている。歴史を辿ると、関東公方足利持氏が室町幕府に反旗を翻した永享の乱(1438年)の時、幕府

側の上杉持房が高麗山に陣を構え勝利を収めている。永正 7 年 (1510 年) の権現山合戦においては、伊勢新九郎 (北条早雲) が高麗山に城を造り後詰としている。以後、北条氏は狼煙台を設け連絡用の砦としている。高麗山山頂を少し下り 2 本の木の橋をわたると八俣山 (160m) である。そこから稜線上の平坦な樹林の道を行くと浅間山 (181.3m) で小さな石の祠と一等三角点がある。そこから少し下り登り返すと湘南平のテレビ塔が見えて来る。ひろびろとした湘南平の小田原寄りにある展望台に登ると、眼下に大磯の町や相模湾が広がり、遠くは丹沢山塊や箱根連山、江ノ島、三浦半島、房総半島が一望のもとに見渡せる。しばしの間、この大パノラマを楽しみたいと思う。下りのルートはいくつかあるが、今回は 7 世紀頃の墓といわれる楊谷寺横穴墓群を経由して大磯駅前まで戻る。まだ時間が早いので大磯市内を散策したいと思う。まず島崎藤村の墓がある地福寺、大磯照ヶ崎海水浴場の碑、そして新嶋襄終焉の地 (徳富蘇峰の筆による碑が建っている) を訪ねる。そこからさらに道なりにしばらく行くと西行法師の歌で名高い嶋立沢に嶋立庵がひっそりと建っている。現在は日本三大俳諧道場の一つと言われている。そこから国道 1 号を渡り路地に入ってしばらくゆくと、島崎藤村が亡くなるまでの 2 年余を過ごした旧宅がある。「東方の門」執筆中に倒れ 71 歳の生涯を閉じた家である。家の中を見学の後には近くの旧東海道松並木に面する蕎麦屋で軽く打上げを行なう予定である。

## 文学散歩

### ◇横浜文学散歩第 2 弾

#### 「横浜のみなとに沿って文学に浸る」

1. 日 時 9 月 28 日 (日) 小雨決行、大雨・強風中止
2. 集合場所 東急みなとみらい線 元町・中華街駅  
(5～6 番出口方面改札口)
3. 集合時間 13 時
4. 申込締切 9 月 23 日 (火)
5. 申込先 18 期 谷口まで  
・携帯  
・メール  
・携帯メール
6. 費用 入館料 500 円程度 懇親会費 4,000 円程度
7. 案内人 季刊誌「横濱」編集長 19 期 佐藤 彰芳
8. コー ス

みなとみらい線元町中華街駅集合→文学碑 (中島敦) →蓮光寺 (吉川栄治) →ゲーテ館 (北村透谷、坪内逍遥他) →大佛次郎記念館もしくは神奈川近代文学館 (神奈川と作家達) →マリントワー (吉行淳之介) →弁天通 (獅子文六、小島鳥水他) →大棧橋 (森鷗外、五木寛之他) →新港埠頭 (三島由紀夫他) →ドックヤードガーデン (吉川栄治他)  
\* (OP) 帆船日本丸～横浜みなと博物館→野毛山公園界限 (中村 汀女、有島 3 兄弟、獅子文六) →野毛飲食街

横浜文学散歩、昨年 5 月の第 1 弾「横浜開港に秘められた歴史」に続く、第 2 弾です。昨年は「文学」というよりは「歴史」の色合いが強い企画でしたが、第 2 弾では文学色を強め、みなと横浜にまつわる作家たちの足跡を辿ります。

1) 元町中華街駅から山手へ : 最初に向かうは、33 歳の若さで亡くなった中島敦 (代表作 「山月記」) の文学碑、さらに国民的作家吉川栄治 (吉川家) のお墓がある蓮光寺に立ち寄る。その先フェリス女学院 (川端康成の「乙女の港」の舞台) のそばを通り、山手の周辺から坂を上り、港の見える丘公園エリアへ。透谷や逍遥らも観劇したゲーテ座記念 岩崎博物館もある。昨年も訪れたが、今回神奈川近代文学館では、「文学の森へ 神奈川と作家たち」(第 1 部 夏目漱石から萩原朔太郎まで) の常設展が当日 9/28 まで予定、そして隣接する大佛次郎博物館と、どちらか選んで見学。

2) マリントワーを通り、山下公園へ : 作家 吉行淳之介は『砂の上の植物群』では、冒頭に「港の傍に、水にそって細長い形に広がっている公園がある」と書き、「男が山下公園から最近建てられた塔 (マリントワー) で女子高生と出会う」ところから物語が始まっている。

3) 大棧橋へ : 途中立ち寄りしたい通りは、作家獅子文六の生誕の地である弁天通、横浜出身の山岳文学者 小島鳥水 (日本山岳会 初代会長) は、上京した石川啄木とこの弁天通の旅館「長野屋」で逢ったという故実もある。ジュール・ベルヌの『80 日間世界一周』で当時の横浜港が記述されている。森鷗外の留学中の体験をもとにした『舞姫』では、彼を追って日本にやってきたドイツ留学中の恋人エリーゼが大きな橋に降り立つ。五木寛之の「青年は荒野をめざす」では、主人公の青年が、ここからナホトカ港に向けて旅立った。

4) 汽船道を歩き、赤レンガ倉庫へ : 汽船道は鉄道廃線跡を利用した遊歩道。この辺りから、多くの人たち (作家や画家も) が海外へと旅立った。川端康成が『花のワルツ』では、その当時の臨港カフェと棧橋食堂が書かれている。さらに新港埠頭は、三島由紀夫が元町のブティック経営者の未亡人と航海士のロマンスを描いた「午後の曳航」(1963 年) の舞台のひとつである。

5) 赤レンガ倉庫からランドマークタワー下の「ドックヤードガーデン」へ

「かんかん虫」として働いた吉川英治、当時 17 歳を 20 歳と偽り、横浜船渠 (ドック) の船渠部で働いた。彼らは「かんかん虫」と呼ばれ、船のさび落としが仕事、作家・長谷川伸もこの「かんかん虫」を経験している。

\*もし時間が許せば、帆船日本丸の脇へ「横浜みなと博物館」へ、ペリー来航からの港の変遷を見て、「横浜港を舞台にした映画 (日活映画など) やドラマのコーナー」で、映像になった昭和の横浜港の雰囲気に入る。

6) 野毛山公園界限 : 桜木町の駅を突っ切り、野毛山公園へ、ここには 俳人中村汀女の句碑がある。何よりこの付近は、有島 3 兄弟 (有島武郎・有島生馬・里見弴) の生誕地でもある。

きっとこの頃には 空腹とどのどの渴きが限界に達しているはず、一気に坂を駆け下り、野毛の繁華街へ。

横浜ベイエリアには、お洒落なお店も多いが、岳文仲間は、やはり庶民的な野毛の飲食店街が合っている？

一軒目は、女優 樹木希林さんのご実家、創業60年の「叶家」あたりはどうでしょうか。そして仕上げは、日本で最も歴史のあるジャズ喫茶「ちぐさ」あたりでグラスを傾けるのもよい、色々考えられますね。

以上、今回も盛り沢山の企画です。ご参加の皆様の気力、体力を伺いながら、コースは臨機応変に、と考えます。昨年と辿るルートやエリアはあまり変わりません。しかしながら、昨年は「歴史」、今年は「文学」と、違った切り口で巡ると立ち寄りところも変化します。横浜の港に沿って、ともに文学に浸りましょう。

コース選択案内文記述：佐藤彰芳

谷口一哉

資料提供：轡田先輩

## ◇本郷から小石川へ

### 漱石と啄木、盛岡中学の俊秀たち

1. 日時 10月26日(日) 午後1時～
2. 集合場所 地下鉄丸の内線 本郷三丁目駅改札
3. 集合時間 13時
4. 申込締切 10月23日(木)
5. 申込先 12期 轡田まで  
・携帯  
・メール
6. 費用 懇親会費 3,000円程度
7. 注意事項 小雨実施 強風・豪雨中止又は延期
8. コース

本郷三丁目駅 — 啄木旧居跡(理容喜之床・現アライ理容店) — 文信社跡(賢治の勤務先・現東京眼鏡店) — 金田一京助終焉の地 — 賢治居住跡 — 啄木・京介居住跡(赤心館跡) — 啄木・京介居住跡(蓋平館跡) — 京介旧居跡 — 漱石旧居跡 — 幸田露伴・文・青木玉住居 — 傳通院 — 法蔵院(漱石居住跡) — 歌塾「萩之舎」跡 — 川口松太郎終焉の地 — 永井荷風生誕の地 — 新福寺(漱石居住跡) — 小石川植物園 — 啄木終焉の地 — 徳川慶喜終焉の地 — 地下鉄茗荷谷駅

漱石と啄木は同じ時期に朝日新聞社の社員であった。漱石の病床に啄木が見舞いに行ったという記録もある。金田一京介と啄木は盛岡中学の先輩・後輩の間柄で、京介が3年のとき啄木は1年で同じ文芸部に所属していた。啄木の数年後に賢治もまた盛岡中学に入学した。今回はこのような関係を主として散歩してみる。

まず、理容喜之床跡に行く。啄木は朝日新聞社に入社して

安定した収入を得るようになったので、家族を呼び寄せようやく一緒に暮らすようになった。喜之床の建物は明治村に移築されている。そこから赤門前に行く。賢治は花巻から上京し、文信社という印刷会社で働きながら宗教活動をして、精力的に創作活動を行った。この近くに京介の終焉の地がある。その後、菊坂にある賢治の居住跡に寄ってみる。

啄木と京介は赤心館という下宿に住んだ。ここで啄木は家賃を滞納したが、京介は蔵書を売り払って啄木の家賃を清算し、蓋平館別荘という下宿屋に共に移り住んだ。京介は物心共に啄木を支え続けたのである。この蓋平館別荘跡には啄木の「東海の 小島の磯の白波に～」という歌の碑がある。この後、京介・春彦の旧居跡を訪ねる。

次に漱石が猫の家から転居した住居跡に行く。ここは、「三四郎」の中で広田先生が転居してきた家の舞台となっている。ここから白山通りを渡って、幸田露伴・文・青木玉と続く幸田家4代の家へ行く。かつて「蝸牛庵」と呼ばれていた家であるが、現在は建替えて立派な家になっている。坂を上がったところに傳通院がある。家康が生母於大の方の冥福を弔うために建立した寺である。於大の方、千姫、佐藤春夫、柴田錬三郎等の墓碑がある。この近くに、漱石が松山に赴任する前に間借りしていた法蔵院がある。

春日通りを渡って、一葉が通っていた歌塾「萩之舎」跡を訪ねる。主宰者中島歌子の生涯は朝井まかて著「恋歌」に書かれている。近くに第一回直木賞を受賞した川口松太郎が家族と共に住んだ「川口アパートメント」があるので寄ってみる。松太郎はここで亡くなった。さらに先にいくと、永井荷風生誕の地がある。高級官僚の長男であった荷風は、高等師範学校付属尋常中学校までここで過ごした。

春日通りを渡り返して、漱石が大学予備門受験の際に、友人たちと間借りして勉強した新福寺があるので寄って、小石川植物園へ行く。ここは吉宗が、大岡越前守に命じて作らせた小石川養生所のあった所である。山本周五郎が「赤ひげ診療譚」として著し、黒澤明が作った「赤ひげ」の舞台である。ゆっくりと園内を散策し一休みしよう。

近くの啄木終焉の地に向かう。啄木はここで父、妻節子と友人若山牧水に看取られながら明治45年4月13日永眠した。結核で27年の短い生涯を終えた。6月に次女誕生、同月第二歌集「悲しき玩具」が出版された。

桜名所として名高い播磨坂を上って、春日通りを渡った先に徳川慶喜が家族と共に晩年を過ごした住居跡がある。地下鉄茗荷谷駅はすぐ近い。駅近辺での打ち上げとなる。

\*本郷周辺を歩くときには、一葉関係の旧跡の近くも回りまです。一葉文学散歩に参加しなかった人が今回参加された場合は、一葉の旧跡にも寄りたいたいと思います。

## 山の歌を中心にみんなで唄う会

♪まき割り、水汲み、小屋そうじ…♪、♪今日は野を越え、明日、山越えて…♪、♪星の降るあのコル、グリセードで…♪などなど、2号館5階屋根裏の部室で、みんなで唄った、あの歌、この歌、懐かしい岳文の青春の思い出です。

その思い出の歌の数々が今よみがえります。4期・西 信光さんのギターとリードで、高原の山の家でひと晩唄いましょう。山の歌だけでなく、あの時代に歌声喫茶で流行った歌も一緒に。

9月21日(日) 夕方6時ごろ～22日(月)朝

蓼科高原・小田山荘 [www.odahiko.com](http://www.odahiko.com)

昼までに来てください。午後八子が峰に2時間半ほどハイキングし、温泉に入って、ディナーパーティを楽しみながら、歌いましょう。

前日20日(土)から来られる方も歓迎、20日夜はリハーサル&カラオケです。22日(月)勤務の方は朝5時半の高速バスに送ります。8時に新宿着。

22日、23日(秋分の日)滞在も歓迎。初秋の霧ヶ峰もいいですよ。

費用：1泊6,000円、2泊10,000円(全食事、飲み物、温泉付き)、交通費別途

(参考) 新宿 8:00(特急あずさ)10:07 茅野 10:35(東急リゾート無料バス)11:15 山荘

車の方は、中央道・諏訪南または諏訪インターから約40分  
申し込み：小田毘古(7期)

## 夏 合 宿

現役の夏合宿が8月15日から8月24日の間、北アルプスで行われます。集中式は8月23日(土)午後3時から上高地の小梨平で行います。

O・B会としては、これに合わせて参加したいと思います。当日の夕食は現役とともに頂きますが、翌24日(日)の朝食は各自ご用意願います。(キャンプ場内に食事を取れるところがあります。)

梓川のせせらぎの音を聞きながら満天の星を眺めるという別天地のようなひと時を共に過ごしてはみませんか。

1. 日時 平成26年8月23日(土) PM3:00 集中
2. 場所 上高地 小梨平キャンプ場
3. 交通 各人にて手配してください。  
マイカーの場合も沢渡駐車場よりバスまたはタクシー利用になります。
4. 予定 現役と共にキャンプファイヤーをします。  
夕食は現役が作ってくれます。食器類を持参してください。

5. 連絡 事前にご連絡頂ければありがたいですが、当日参加も大歓迎です。

響田(クツタ) (12期)

- ・メール：
- ・携帯：

※ 悪天候や熊出没によるキャンプ場の閉鎖等、集中式が予定通り開催できない事態となった場合は、判明次第岳文会OB会ホームページにその旨を掲載する予定です。参加される予定の方は、ご確認ください。

## 現役から

### 55期 杉村 颯太

晴れたかと思いきや雲で空が埋め尽くされ大雨が降る、など不安定な天気が続いている東京ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。現役の方は、山頂からの晴れ景色を早く見たい、と梅雨が明けるのを今か今かと待っております。

いよいよ夏合宿の班員も決まり現役岳文会の最大イベントが近づいているのを実感するこの頃ですが、この場をお借りして平成26年度現役岳文会の活動報告、そして夏合宿までの活動予定の報告をさせていただきます。

今年の新歓活動は、現役会員の懸命な雨にも負けない勧誘のおかげかとにかく新入生の数に恵まれました。新歓コンパでは、あまりの新入生の数に用意された座席では埋まらないなどという嬉しい悲鳴もありました。

新歓企画も、予定していたバーベキュー(飯能)、鎌倉ハイキング、キャンプ(奥多摩)、登山(高水三山・御岳山・川苔山)、早慶戦の全てを問題なく行うことができ、その結果47人のたくさんの新入生が岳文会57期として入部してくれました。

新歓期間の後の企画としましては、まず6/7,8に飯縄山へ登りました。前日に大雨警報が発令されるなど登山が危ぶまれる天候でしたが、ちょうど山行が始まるころに雨が弱まりはじめ、山頂では雲の切れ間から下界がちらりと見えるというようなどこか神秘的な景色を見ることができました。

そして、7/5,6には浅間山へ行ってきました。天気予報では相変わらずの曇りでまた晴れた山頂からの景色は拝めずか、と思っていましたがいざ登ると太陽が顔を出し、360度の山々を一望できる雄大な景観に出会うことができました。

これからの活動としましては、来る夏合宿の前に念願の南アルプス・燧ヶ岳への山行を計画しております。そして夏合宿ですが、今年は15日から24日までにかけて実施し、集中式は23日(土)に小梨平にて執り行う予定をしております。OBの皆様と小梨平でお会いできるのを心待ちにしております。なお、悪天候などにより集中式が中止になってしまう場合は、岳文会OB会のHPにその旨が掲載されますのでぜひご確認ください。

このように現役岳文会が新歓を通じて仲間を増やし、様々な楽しい企画を実施できるのは OB の方々の多方面でのご支援、ご助力のおかげでございます。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

## 活 動 報 告

### ハイキング

#### 岳文OB会山行報告

##### 11期 日下部 年伯

筑波嶺の峰より落つる男女の川

戀ぞつもりて 淵となりぬる

百人一首に詠まれた筑波山は常陸風土記にも紹介された百名山の一つです。神様の中の神様であった御祖の命（みおやのみこと）は富士山で休憩しようと考えましたが、冷たくあしらわれて、人が訪れないように一年中雪と氷で覆ってやろうとしました。筑波に至った御祖の命を筑波の山神は丁重にもてなしたので、人が何時でも訪れる緑豊かな山にしてくれたのです。

五月十八日 快晴の筑波山を訪ねました。私は柏在住のため集合場所の秋葉原には出掛けずにおおたかの森から出発しました。電車の中でメンバーを探しましたが判りません。筑波山直行のバス停に行くと轡田氏が声を掛けてくれて、パーティに逢えました。四十年振りの再会ですが轡田氏は学生時代の面影を消失せずに居ました。彼とは学部学科も同じで、航海派のメンバーでもあったことから話がはずんで、昔日に立戻った感があります。

筑波山神社では結婚式が挙行されていて、新郎新婦が記念撮影をしているそばを通り抜けました。御幸ガ原（みゆきがはら）を目指すルートは人が多く、御祖の命が筑波を祝（ことほ）いだことが二十一世紀の今日も効果を保っている状態でした。ケーブルカーのトンネルを横切った辺りには、男女の川の源流があり、美味しい水を飲んで先に進みました。何故東北朝日の銀玉水の水が美味なのか、轡田氏が歩き乍ら語ってくれたのが耳に残りました。二時間強の登りを終えて御幸ガ原にある売店のそばのベンチで昼食を摂りました。私は売店の筑波うどんを注文しましたが、皆さんはお弁当を準備していました。荷物をベンチに置いて男体山に登り荷物をかついで女体山から岩場巡りをしながら下山です。ツツジがきれいに咲いている時期でもあり本当に多数の登山者で、待ち時間を設けなければならない程でした。幼稚園児と思われる子連れの方々がこんなにも沢山居てくれるかと思うと嬉しくなってきました。北アルプスにも存在している高天原（たかまがはら）が筑波にも在りました。弁慶茶屋跡までは奇岩を楽しみながら下りましたが、ここからは単調な下山ルートに

なりました。約二時間程で神社横の温泉宿に到着して露天風呂に入り汗を流しました。一昨年七月に岸上氏と白峰三山縦走をした時には大門沢の下りでバテてしまいましたが、今回は無事に下山できたことをメンバーに感謝して報告と致します。

今回のメンバーは、11期の日下部、12期の轡田英夫氏、13期の日下正紀氏、14期の佐藤誠記氏、企画立案者でもある14期の田村辰夫氏の五名でした。

俺が去った後でもヨー雅量の意気でヨー  
噂なりともヨー聞かせておくれヨ  
トコトン ヤルゼー



### 文学散歩

#### 武蔵野夫人の舞台国分寺からはけの道を巡る

##### 13期 日下 正紀

大岡昇平の小説「武蔵野夫人」は若い人にはなじみのない小説であろうか。

2014年4月6日（日）11時、JR中央線国分寺駅改札口に集まったのは、おなじみの10期前半世代のメンバー 細山さん（11期）、轡田さん、片山さん、濱西さん（12期）、宮島さん、日下（13期）、佐々木さん、田村さん（14期）の8名である。濱西さんは、富山から久々の参加である。遠い所ありがとうございました。

文学散歩は、参加者の面子で雨になる確率が高い。今回も前日、天気不安定との予報で朝方には雨の降っている所もあった。不安一杯の天気である。しかし午前中は、陽射しもあって暖かな散歩日和となった。

武蔵野夫人のストーリーは、貞淑で古風な倫理観を持った人妻通子と戦地ビルマ（現ミャンマー）から帰還したばかりの従弟の青年勉との結ばれぬ愛の物語である。小説では、野川の源流を訪ね、はけの道を小金井から国分寺の湧水群へとさかのぼる。

今回の文学散歩は「武蔵野夫人」の舞台である国分寺崖線、はけの道を辿る散歩である。青年と人妻が訪れた最終目的地（恋が窪）が日立中央研究所の庭園内とのことで、庭園の見

学を第一目的として、開催日も庭園の一般公開日に合わせ、またコースも逆から辿ることにした。

蛇足であるが、私が日立製作所に勤めていた頃、打合せで2、3回しか中央研究所には訪れたことがない。ましてや武蔵野夫人の舞台になっていたことなど全く知らなかった。NHKの番組「ブラタモリ」の国分寺の回で庭園が放映されたのがきっかけでとりあげる。春夏2回、一般庭園開放日があるのもその時知った。

ちょっと紹介させていただくと、日立中央研究所の庭園には約27,000本の樹木があり、昭和17年設立以来、構内の自然環境の保全に取り組んでいる関係で、武蔵野の原風景を残している。春にはサクラ、秋には紅葉が楽しめる。

さて、余計なことばかり、肝心の散歩は、国分寺駅に集まると、中央研究所に行く人で混雑していた。もちろん私達のような文学散歩が目的ではなく、庭園、湧水池（大池）の見学と花見だと思われる。研究所内に入ると広場にはすでにシートを広げて飲食している人たちが多かった。私達もすぐに場所取りをして昼食の準備をと思ったが、まずは湧水と野川に流れる水門を確認して大池に下りる。当然のことながら中央研究所の建物は国分寺崖線の上に、大池は下にある。今回は、アップダウンの多い散歩である。大池の周辺で行列のできているのが、お目当ての場所であるが、並んで見学するほど時間もなく、確認だけで通り過ぎる。お昼にしようと広場に向かうと朝の心配が的中し、雨が降り出して来た。気温も下がって肌寒くなる。花見をしていた人たちも片づけて帰路に着く人も多くなった。ここでの食事をあきらめて、次の見学地の国分寺跡へと歩を進めた。

国分寺跡に行く途中、雨が上がった。国分寺湧水群の中でも1番大きいのではないかと思う真姿の池に来る。透き通ったきれいな水が豊富に流れる。池の中には弁財天の祠がある。

お昼も過ぎてお腹もすいてくる。ここから、お鷹の道を通って史跡の駅「おたカフェ」にむかう。お鷹の道は、江戸時代尾張徳川家の鷹狩り場への小道で、そのように呼ばれる。小道の側の湧水路は水がきれいでも蛍が繁殖しその観賞路にもなっている。「おたカフェ」は小さなお店で店内は混雑していたのでオープンテラスで昼食をとる。昼食を食べ終わるとあがっていた雨が、また降り出してくる。大変ラッキーであった。昼食後、カフェで入場券を購入しすぐ側にある武蔵国分寺跡資料館に入る。少人数であったので、ボランティアガイドに案内をお願いする。30分くらい説明を聞いて、資料館を後にする。国分寺に寄って、武蔵国分寺跡地へ行く。数年前から行っている発掘の調査を終えたのか一部盛土の工事に入っている。どこまで再建するのであろうか。だんだん雨風も強くなるが、七重ノ塔跡地にも寄る。公園になっていて満開を過ぎたサクラの花吹雪が、美しかった。花見客もいたが、雨と寒さで早々と切り上げた人も多かったのであろう。天気が良いれば、絶好の花見の場所である。雨風をしのげる場所がないので、早々とお鷹の道から国分寺駅へと戻る。そして

国分寺駅近くの都立殿ヶ谷戸庭園に入る。この時期は、園内はあまり見るべきものがない。もみじの木が多く、紅葉の季節が良いようである。

天気回復の見込みもなく、恒例の打上げの時間に近付いたので、広島から出張できている12期の赤丸さんと合流すべく高田馬場の清龍へと向かう。予定のコースの半分で散歩を終了した。

数日後、残り後半のコースの小金井方面を歩いたが、野川沿いのシダレザクラが満開できれいであった。また、武蔵野夫人の住んでいた場所のモデルになったともいわれるはげの森は、竹林もあって静かで幻想的な場所であった。興味のある方は、是非訪ねてほしい。また、そうでない方も是非お花見に1度は訪ねてほしい場所である。



## 早稲田から飯田橋へ 神楽坂界限 —漱石と紅葉—

12期 轡田 英夫

今回の神楽坂界限の文学散歩に参加された7期の島崎玲子先輩から感想をいただきましたので以下にご紹介いたします。

同期の中島さんの訃報を聞き、わたしたちが元気でいられる時間も限られていることを実感し、7期の細谷さん、大橋さんと文学散歩に参加することにしました。毎日のように通っていた早稲田のこんなに近いところにこのようなところがあるとは。

轡田さんの詳しいガイドで、昔覚えた文学史を思い出しながら、とても楽しいかつ有意義なひと時を過ごしました。はじめてお会いした方々や、久しぶりに会った方と大いにおしゃべりをし、打ち上げでは久しぶりに飲み、命の洗濯をしました。また、参加したいねと語り合いながら家路に着きました。

轡田さん、本当にありがとうございました。

7期 島崎玲子

日 時	6月22日（日）	午後1時～4時	その後懇親会
参加者	7期 大橋 島崎 細谷	8期 瀬川	12期 片山 轡田 奥村 14期 田村

当日は未明から雨が強く降っていたが、出発の1時過ぎにはあがり、曇りで暑くもなく文学散歩には程よい天気であった。早稲田駅文学部側出口の通りの向かいに、小倉屋酒店がある。この店は1678年開業という歴史のある酒屋であり、中山(堀部)安兵衛が高田馬場の仇討ちの助成に駆けつけるとき一杯引っ掛けていった店として知られている。この店から夏目坂に入った一角が漱石の生誕地である。安倍能成の書による立派な石碑が建っている。漱石は生まれてからすぐに里子や養子に出され、不遇な幼年時代を送った。緩やかな夏目坂を登ったところが、田山花袋が青年期の一時期を過ごした所である。そこから少し先に行った所で牛込武郎は晩年を過ごした。武郎はここから軽井沢の別荘に行き、三人の幼子を残して婦人公論記者波多野秋子と情死した。長男が俳優森雅之である。

有島宅から少し戻り、右に曲がって緩やかな坂を下っていくと早稲田小学校がある。この建物は、東京国立博物館本館を設計した人によって作られた建物で、小学校とは思えぬほど立派な建築物である。ちなみに、新宿区は小学校に幼稚園を併設しているので、ここには早稲田幼稚園がある。早稲田幼稚園、早稲田小学校、私立早稲田中学・高等学校、早稲田大学と進むと学歴は早稲田一色になるなどと馬鹿なことを考えた。

少し離れた所に漱石山房がある。漱石は、ここで彼の代表作のほとんどを生み出し、49歳の生涯を閉じた。漱石の葬儀の日、受付に立っていたのは若き日の芥川龍之介であった。2017年の漱石生誕150年に、新宿区は漱石記念館を建てようと計画して基金を募っている。漱石山房の裏側に宗参寺がある。ここら辺一帯を支配した牛込氏の菩提寺であり、山鹿素行の墓所でもある。

外延東通りを渡ると多聞院がある。島村抱月の後を追いつぎ死した松井須磨子の墓所である。須磨子の死を哀れんだ友人によって藝術比翼塚が同寺院内に建てられた。須磨子は逍遥の主宰する藝術協会で、「人形の家」のノラを演じ、一躍スターとなった。その後、逍遥から別れ、抱月とともに芸術座を結成し、チャーホフ、トルストイなどの作品を演じた。「カチューシャの歌」「ゴンドラの唄」などは今でも歌い続けられている。隣の浄輪寺には関孝和の墓がある。和算を当時の世界の数学のトップレベルまで引き上げた人物である。

住宅街の中を歩いていくと、泉鏡花の居住跡に至る。鏡花は芸妓桃太郎と親しい仲になったが、師紅葉の叱責を受け一時別れた。この体験から生まれた作品が「婦系図」である。

漱石夫人鏡子の実家であり、漱石が英国から帰国後夫婦で一時住んでいた家跡(現新潮社)を通り、古今亭志ん朝終焉の地、広津柳浪・和郎住居跡を経て紅葉終焉の地に向かう。紅葉が「十千萬堂(とちまんどう)」と名付けた家で、鏡花は内弟子として玄関の脇の部屋に住み込んだ。現在もその跡地は残っている。

紅葉旧居跡から少し離れた所に、抱月の「藝術倶楽部」跡がある。抱月と須磨子はここを拠点として精力的に演劇活動を行った。しかし、抱月がスペイン風邪に罹り47歳の生涯を

閉じると、その2ヶ月後須磨子は後追い自殺をしたのである。

袖摺坂などという粋な名前の坂を下り、緩やかに登りかえすと江戸時代の戯作者大田南畝の旧居跡に至る。紅葉はこのことを知って、同じ所に住居を構えた。この近くに宮城道雄記念館がある。ここで大失敗をしてしまった。なんと日曜部は休館なのである。前日の土曜日に下見をしたのだが、そのときも休館であった。参加者の皆さんには真に申し訳ないことをしてしまった。この記念館は訪れるときは確認して行った方がよい。門の右側には巨石に刻んだ「宮城道雄略傳」碑があり、その脇から和風の邸宅を見ることができる。

牛込城址である光照寺に立ち寄り一休みした後、神楽坂の通りに突き当たった。突き当たった所が文具店「相馬屋」である。漱石、紅葉、鴉外ほか名だたる文人が相馬屋製の原稿用紙で執筆した。神楽坂は人通りが多い。とりわけ若い人が多い。毘沙門天に参拝した後、横丁に入り、黒板塀の料亭や旅館の立ち並ぶ石畳道を散策する。三味線を抱えた芸者が玄関から出てきそうな雰囲気である。石畳の細い階段を降って理科大の裏に出ると、鏡花の旧居跡に着く。鏡花がここを去った数年後、それとは知らず北原白秋が同じ家に転居してきた。

宮城道雄記念館の見学時間がなかったせいか、予定より早く終わった。飯田橋駅の近くで軽食をつまみながらの打ち上げをして懇親を深めた。

## 早稲田スポーツ観戦

春の早慶戦(2014年6月1日)

46期 川浪 阿弓

参加者:(敬称略)7期小田、12期響田、13期深田、18期谷口、44期高橋、西子、45期川浪、46期川浪

東京六大学春季リーグ戦を制するのは早稲田大学か慶應義塾大学か。早稲田には4季ぶりの優勝がかかる伝統の早慶戦。前日の初戦を落とした早稲田は、この日の勝利が優勝の絶対条件となった。雲ひとつない空の下、神宮球場が老若男女の熱気で包まれている。

早稲田の勝利を見届けようと集まった岳文会OBの面々は、到着早々会場の熱にあてられ、ビールで喉を潤した。売り子のお姉さんを視野にとらえるのに余念がない我々の意識を早慶戦に戻してくれたのが試合前の応援合戦だ。若い男女が一生懸命応援する姿を見て「かわいい」と思う自分に時の流れを痛感する。また、今回は早稲田大学男子チアリーディングチームも会場を盛り上げ、岳文会OB女性陣の心を盛大に躍らせてくれた。

試合は初回、早稲田の攻撃で大きく動いた。1点を先取したのち、満塁ホームランで計4点を先制したのである。神宮で「紺碧の空」の大合唱が轟く。早稲田の勝利を予感させる展開に期待が膨らみ、我々も肩を組んで興奮を歌にのせた。

ところが2回裏、慶應が試合の流れを覆す攻撃を見せた。慶應打線が猛攻し、6点を奪われてしまう。我々は意気消沈

するも、ビールの方で沈んだ気分を上昇させ、再び応援に気合を入れる。早稲田側の応援が選手に届いたのか、4回表で1点、5回表で1点を早稲田が返し、同点に並ぶ。

最終回で6-8。初回の攻撃時に見せた満塁ホームランで逆転勝利というドラマチックな展開を祈るも叶わず、慶應の勝利に終わった。秋季リーグで雪辱を遂げることに期待し、我々は神宮を後にした。

その後は秋葉原に移動して、44期高橋先輩の出身地・北海道留萌市公認ダイニング「留萌マルシェ」で楽しい時を過ごした。名物の甘えび食べ放題では鮮度の高さと量の多さに大感激！食を通じて留萌市の豊かな自然とおもてなしの心に触れることができる素敵なお店であった。

帰路につきながら1日を振り返った時、頭に浮かんだのは早稲田のつながりや岳文会のつながりに対する感謝の気持ちだった。先人から脈々と引き継がれる岳文会があるから、多様な世代・立場のOBが集まって早慶戦に参加することができるのである。一般に得難いこのつながりに改めて感謝して、筆をおくこととする。

## 北海道岳文OB会

札幌でOB会開催

7期 小田 毘古



50周年をきっかけにそのときの寄付担当の小田(7期)が行く機会に、北海道にいるOBに声をかけ、集まっていた。代表幹事は小野さん(5期)、北海道山岳連盟会長という北海道登山界の重鎮である。小野さんが指導している山のクラブがニペソツ岳に行くというので、小田も参加することにした。ニペソツは東大雪の遠く、深く、長い道のりの山であるが、深田久弥が百名山発刊後に登り、「しまった。入れるべき山だった」と悔やんだ幻の百名山にふさわしい名峰だった。この登山前の6月19日に、札幌駅前のライオンステラプレイス店に6名のOBが集まった。田中さん(4期)、森さん(5期)、小野さん(5期)、矢野さん(7期)、藤野さん(16期)、小田。藤野さんは読売新聞の敏腕記者から3年前北海道大学の教授に華麗なる転進をした。「大学の先生とは、こんなに忙しいものとは知らなかった」とこぼしていたが、札幌の日々は楽しく過ごしているようだ。

田中さんは現職弁護士として活躍中。森さん、矢野さんは経営の一線から退いてはいるが、忙しそうだった。参加しなかったが北海道には他に越前谷さん(13期)、本さん(26期)、山崎さん(27期)、原口さん(28期)がいる。

## 北陸・甲信越地方のOBから

新潟にて・・・

4期 番場(赤穂) 恵美子(新潟県在住)

現在、新潟に住んでいます。

私は“染”という技法を使った創作活動を、東京にいる頃からずっと続けています。30年近く前、この地に来た当初は、何故ここに住んでいるのだろう・・・と、何度も自問自答することが多くありました。新潟の美術界(限られていたと思いますが)をみても、地域感覚からみても、タイムトンネルの世界をさまよっている感じがしました。

ただ、その中で私の作品内容が大きく変わってきたような気がします。

太平洋側と日本海側では海の表情が違います。日本海側の海に映し出される夕陽は、壮大で刻々と変化します。日本海というより全宇宙の彼方に太陽が沈み、そしてまた昇る、という余韻を残しての色彩・・・今では<光の刻>を感じます。

30年の月日は、街もひととずいぶんと変化してきています。

今では新潟から東京まで新幹線で2時間程度です。仕事も日帰りで十分ですし、生活感覚もファッションも東京と変わりません。ただ少し、ひと数が少ないせいとか、ゆったりとしています。

美術の世界も以前と変わらないところはありますが、長岡や柏崎など、レベルの高い魅力的なギャラリーや美術家も出てきています。

現在も、新潟、東京、鎌倉、海外などで染の個展活動をしています。

## わたしの近況

16期 津野 健(新潟県胎内市在住)

あるエッセイで紹介されていました。引用します。むかしの唄です。「村の渡しの船頭さんは、ことし六十のお爺さん」、だそうです。

昨年、私も還暦をむかえました。けれどもご同輩の諸氏同様、私も気だけはすこしも変わらず(成長せず?)、たとえば学生時代、早稲田1号館をいきなり地下に下りて、それから5階へ(地下をいれれば6階)、途中ほかの階には寄れずに両側壁だけの階段を幾度も折り返しのぼって、のぼり切ったすぐ右横、隅で天井がななめに落ちた屋根裏の一角、うす暗く



狭く乱雑な、会の山行用具も置いてあった筈が、確か入口の扉もなく、よくいえば来るもの拒まず開放的で、いまで考えれば極めて不用心（学生のころは誰も人を疑うことをあまり知りませんでした）、そしてそれぞれ思い勝手に、各自が誰かにマジック書きで連絡するワラ半紙（そう、携帯のない時代）が四方に貼られた部室の、（これも確か）まず山の唄から始める毎週火曜日夜刻、岳文の例会では、板に脚をつけただけの長椅子には座りきれずに、向かって左の壁側、謄写版の手押し刷り機（はいワープロもない時代）とインクとワラ半紙が載った台のその端へ、青臭い顔に細身の尻（当時は）をあさくあずけていた、そうまさに、（悲しいかな）いまでも気分はあこのころ、1970年代半ばのままなのです。

とはいえ、傍からみれば歳はそれなりで、生まれ育ったこの地、山沿いの純農村、最近では猿やハクビシンが畑作物を荒らし放題の、新潟県胎内市羽黒（新潟の県北）で、今年、私、世帯 180 戸の地区の役についてしましまして、そして日々種々雑多な役目のそのひとつに、標高 568 メートル、日本一小さい楡形山脈（と当地小学校では必ず教えられます）の中腹にある、近在では「羽黒の観音様」とよばれる「羽黒十一面観世音菩薩像」を祀る観音堂への、毎月 16 日（冬の吹雪でも）の月参りがあるのです（時代小説ではありません）。

郷土史によれば、「羽黒の観音様」は、「治承 4 年（1184）、平資長大和国法隆寺へ参詣ノ折、仏師ヨリ奉納シタル観世音像ヲ勧請」し、護り本尊としてこの地の紫岩峰に安置、その後天保 7 年（1836）現在地に草葺きの堂を建立し、昭和 2 年の大改築もふくめて、脈々と地区の先人たちが維持・管理してきたとされる信仰の霊場、都市近郊にあるなら格好のパワースポットなのです。

月参りの 16 日、地区の信徒総代三人が、参詣の人たちをむかえます。

「今日は あっちえがった（暑かった）ねす」

「はあー よういらすた（いらした）こど」

「おめさまがだ（御前様方） は一やえがった（早かった）ねす」

およそ十数分の石段まじりの山道をのぼると、お堂はこの地の言葉でふんだんにあふれています。いまでは地区外のお馴染みの方が多くなった参詣者は、例月で 20 人ほど、そこでお寺様の経があるのですが、2 月と 8 月の大祭では護摩祈祷が催されるため、お堂はほとんど地区外の、百人前後の人々で埋めつくされます。

そして特筆すべきは、つねに必ず参詣者に供される、昼食のお齋です。地区の（老）婦人十人ほど（まったくのボランティア）が毎月朝早くから食材をしょって山道をのぼり、いまは自家発電の電灯は点いているものの、奥の調理場はガスも水道もなく、山の沢水を引き、薪を焚き、季節の山菜や地区で持ち寄った自家野菜をもとに、浅漬け、酢の物、小煮物、味噌汁、そして大釜で炊いた地元のコシヒカリが供されます。見た目、まことにまことに素朴質素、しかしこれが沢水と薪と、そしてまかないの御婦人方の信心深いご慈愛なのでしょ

う、なににもましてすこぶる、ふこぶる美味なのです。

「今日は ようござして（お出でなって）くれらしたねす おおぎにはやねす」

「こんだたあーげ（こんな高い）どこまで おーたいぎ（御大儀）だったねす」

「こっぺこど（いっぱい） 食べらしておぐないんす」

「まだ じょーぶで 会いましょでねす」

見ず識らずの住まいも名前も知らない、お堂で会うばかりの人たちが、膝を詰めて肩を触れながら、長い飯台をまえにぎっしり居並び、まかないの御婦人方がこまやかに目配りをして、おかわりの給仕をします。

なんだか、なんだかなあーです。現実世界ではいざ知らず、観音様では迎える側も参る側もみな善男善女となり（私もふくめて）、今のこの時代、こんな身近で、一瞬、まるで藤沢周平の世界に迷い込んだかのように、腫の奥がじゅっとあつくなってきます。

以上、これが田舎の在の、ささやかな私の近況です。深夜まで、久しぶりのワープロ作業となりました。これもむかしの小雑誌、（確か）『ビックリハウス』からの引用です。

「余も老けてまいりました」

## 変わるもの 変わらぬもの

### 17 期 足立 直司（山梨県北杜市在住）

当地で就農して以来、28 回目の春が来て、28 回目の田植えをしました。有機・無農薬栽培で約 50 種類の野菜やコメ・麦・大豆を作付し、野菜セット（旬の野菜の詰め合わせ）にして宅配便で直接個人宅にお届けするといったスタイルを一貫して続けています。住まいは当初、中古のプレハブ小屋を建てドラム缶風呂に入る生活からスタートしました。風呂の方は今は洋子（16 期）手作りの五右衛門風呂に昇格しています。”経営主”は洋子。私は農業従事者としてシーズン中（4 月～12 月）は早朝から日没後まで残業代ゼロで働き続ける毎日です。それでも”経営主”のほうには近所の人から「ちったあ休めし」（甲州弁）といったわりの声が掛けられますが、こちらには一言もないのでどうやら「総仕事量」が違うのでしょうか。

28 年間の環境で最も変化したのは、秋冬のアブラナ科野菜（キャベツ・白菜・小松菜など）が格段に作りづらくなったことです。虫が増えたからです。就農したてのころは、秋口になれば気温が下がり虫の活動も弱まって、何の対策をしなくても作物はできました。今は防虫ネットなしだと、ほとんどが虫に喰われてしまいます。温暖化は確実に進んでいます。

行政の対応もこの 28 年間で激変しました。かつて後継者以外の者が農業を目指せば、「離農の世に逆行する変わった人達」と見られましたが、今や就農準備金を用意して迎え入れる時代になりました。

八ヶ岳南麓は、全国的にも新規就農者の多い地域になっています。

そんな部外者でも、この土地に暮らして28年が過ぎ、この6月で60歳になりましたが「定年」ではありません。定年は自分の身体と相談して自分で決めます、これが百姓の良いところ（自営職人全般に）。むしろ農村では60過ぎてからが働き手の中心です。50歳代はまだ小僧扱い。勤めを辞め実家に戻った69歳になる近所の人が畑仕事に苦勞していたところ、親類の80歳を越えたおじいさんから「困ったことがあったら、いつでも手伝ってやるぞ」と言われたとか。定年はありませんが、「結果が答え」の世界ですから、そこが厳しいところでず（これも自営職人全般に）。

八ヶ岳周辺には“定年帰農”ばかりでなく、南麓の別荘で暮らすオジサンやオバサンやらも増えました。休日ともなればホームセンターは県外車で満車状態。日が暮れば今度はヒトと入れ替わりにシカやイノシシが出没し、作物を荒らします。作物を荒らす生き物でいえばカラスやスズメも健在。スズメは一時この地区から姿を消したことがありました。毎年稲に寄って来るスズメ対策に悩んでいた近所のおじさんが、スズメ撃退用の「爆音器」なるものの存在を知り、さっそく田んぼに設置したところ見事にスズメが居なくなりました。しばらくして隣の地区の知り合いがおじさんの所へやってくる「今年はヤケにスズメが増えた気がするけど、お宅の所ではどうかな」と問われたそうです。おじさんトボケて曰く「うちの地区じゃあ、スズメは飼っておらんよ」。一方、スズメのほうは、ほどなく爆音器の音にも慣れ、翌年にはすっかり飼うハメに戻ってしまいました。

さて、ここで突然の問題です。いろいろな生き物が混在している農村ですが、日本がTPPに加盟すれば真っ先に農村からいなくなる生き物は何でしょう。クイズではありません。答えはすぐにお分かりですね。「ヒト」です。農村は「生産の場」だけでなく「暮らしの場」でもあります。TPPで暮らしが奪われれば農村自体が立ち行かなくなります。TPPの議論では「モノ」や「数字」に目が行きがちで、農村は暮らしの場でもあるといった視点が欠けているように思います。

えつ、「山」についてですか？  
仕事上、大地のほうばかり見ている、山は腰を伸ばしがてら仰ぎ見てばかりです。朝な夕なに刻々と表情を変える山々を垣間見ることができるのは、山里に住む者の大いなる特典ですが。それでも当地に来て以来、あいさつ無しで済ませてきた非礼を恥じて数年前、北にある編笠山と南に見える鳳凰三山に、稲刈りを済ませた秋の晴天を見はからって行ってきました。あるものの中から動きやすい服装を考えたら、普段来ている農作業着になり、登る途中では、ころあいの棒切れを拾ってステッキがわりにしましたが、行き交う人達の、なんとカラフルでオシャレなこと。己の格好に恥入りました。編笠山は、かつて縦走の下山路に使って南麓の広々とした裾野を楽しみながら下山していたところをトラックで拾ってもらい小淵沢駅まで送っていただいた思い出があります。今度はその恩返しにと軽トラックで出かけましたが歩いて下山する

人などひとりもいない。皆さんRV車とかで帰っていかれました。山は40年近く前と変わらずにそこにありましたが、ヒトの世の中が変わっていました。

ヒトは変われど恩は忘れず。就農当初の、何のツテもないなか偶然にも同じ町内に岳文の中島先輩がいらして、大変心強く感じたことや、ご支援方々野菜を契約していただいた（ている）大兄・大姉に対する感謝の念も決して変わることなく抱き続けていくものであります。

## AE86乗りの訪問

### 29期 安生 峰幸(長野県長野市在住)

本年5月、東京から友人が訪ねてきた。彼は、山とくまを、こよなく愛する人物である。私は、2年ほど前に、金沢から転勤して長野市内のマンションに移り住んだ、いわば、転勤族の仮住まいの身である。

その彼が、私のマンションのテラス目にしてつぶやいた。「大槍、小槍だけでなく、北鎌まで見えちゃって・・・」

関東に住んでいた頃、北アルプスの奥に鎮座する槍ヶ岳が、平野部の市街地から見るとは夢にも思わなかった。意外にも、長野市の善光寺平、上田市の佐久平など市街地から、槍穂が良く見え、彼と同様、山を愛する私にとって、毎日が幸せこの上ない環境である。

#### サンセット展望台

その彼を、もっと山が良く見える場所を案内した。自宅から車で30分あまりにある標高1600mの峰の原高原である。世間一般には菅平である。

ここからの展望は、本当にすばらしい。特に、剣岳が良く見える。それだけでなく、大窓、小窓、三の窓も、パッチリである。双眼鏡を片手に、峰の一つ一つをじっくり堪能して、彼もかなり興奮した様子であった。

#### ダムーダム

当然、その晩は、山談義に花が咲いた。昨年、10月の3連休で下の廊下を妻と二人でアタックしたときのことを話す。

扇沢までの距離は、自宅から40km、約一時間の道のりだ。アルペンルートは、何回も利用しているが、今回は、黒部ダムどまり。本日の目的地は、池の平小屋である。もっとも、これは、行けたらの話であり、ダメな時は、仙人池まで、と決めていた。一昨年、阿曾原小屋に泊まったとき、ダムからきてダムに戻る登山者は、「ダムダム」と呼んでいると聞いていた。今回は、欲張りにもハシゴ段乗越、池の平、雲切新道、阿曾原、そして下の廊下へ突入、うわさに聞く白竜峽を通過し黒部ダムへ。池の平と阿曾原にそれぞれ1泊、しかも、扇沢に午後1時過ぎに到着した。自宅着は3時過ぎ。ああ、なんとも贅沢な休暇。

友人は、いつしか寝息を立てていた。

翌朝は、愛車の86とともに懐かしいエンジン音をとどろかせ、松本経由で帰っていった。

最後に

今年、長野マラソンに出場した。近年のブームであるが、地元の大大会で万人も参加する人気振りには驚く限りである。長野オリンピック施設をめぐるこの大会は、「スポーツツーリズム」の手本となり、富山、石川で予定されているマラソン大会実行委員会からも視察団が来ていた。エントリーが10月で、しかも、30分で定員に達する大会は、いかにも敷居が高く、もっと気軽に参加できるマラソン大会は無いものかと思っている。



## 新潟暮らし はじめました

### 46期 井上 一樹(新潟県在住)

関東地方に大雨洪水注意報が出されている頃には書いていません。皆様いかがお過ごしでしょうか。46期の井上一樹と申します。

今年3月末にヤマサ醤油を退社し、4月から新潟県の新発田(しばた)市役所で働いています。新発田市はあやめが有名で6月中旬にはなんと「日本四大あやめ園」(微妙)に数えられる五十公野(いじみの)公園が見頃を迎えます。

近くには飯豊連峰、お隣山形県の月山、鳥海山など山も多く、海も車で30分程度、グレンデも1時間以内と自然に囲まれていて、かといって田舎過ぎず、住むにはちょうど良いところと感じています。新発田市は人口10万人都市を謳っていますが、ご多聞に漏れず少子高齢化の波によって現在10万人を割るかどうかのギリギリのところで頑張っていますので、移住を希望される方はどうぞご連絡ください。市外から空き家に定住した場合、10万円の祝金が交付されます。やったね。

さて、4月から下水道課職員として新たな生活をスタートしたわけですが、以前は市役所について「堅そう、暗そう、覇気がない、池田みたい・・・」(内輪ネタすみません)などと思っていました。しかし現在ほどこの市役所も来庁者に気持ちの良い接遇を心掛けていますし、自分が昔地元の埼玉で行った市役所のイメージとは少し変わったなと思っています。

業務内容についても以前の営業職とは大きく変わりましたが、新しく実務を覚えたり関連法規を調べながら、担当分野について少しずつプロになっていく感覚が楽しく、今までよりも近い立場で地域の人たちの役に立てる職務にやりがいを感じています。

30歳になる年に人生の転機を迎えました。何があるかわからないものだなと思います。しかし、自分がハゲることはわかっていました。井上の血脈がそうさせるのです。それはヤマサ時代のストレスや、S石先輩の結婚お祝いVTRで醤油一升頭から被ったことで予定外に早く襲ってきました。何があるかわからないものだなと思います。

昔ある男は言いました。

「男ってのは髪の毛の量で決まるんじゃない。ハートで決まるんだ！」

自分も地域住民の方々のために精神誠意で働き、漢を磨きながら歳を重ねていきたいと思っています。

「新発田市役所に和製ブルースウィルスがいる」

そんな噂が巷に流れる日を夢みて・・・

## メーヤウ in 松本

### 48期 河原田 真紀(長野県在住)

早稲田大学の学生なら一度は行ったことのある、文学部戸山キャンパス隣のエスニックカレー「メーヤウ」。岳文会でもよく行く代表的な早稲田メシの一つです。OBの方々の中にも☆5つ(☆での数で辛さを表す)の「インド風チキンカレー」に挑んだ思い出のある方も多いのではないでしょうか。

そんな「メーヤウ」が実は我々岳文会とも夏合宿で馴染み深い長野県松本市にもあるのです。しかも松本市内の信州大学松本キャンパスの近隣に2店舗も存在するのです。

今回はその2店舗をご紹介します。

#### ①メーヤウ信大前店

信州大の学生の間では通称“上メーヤウ”と呼ばれているこのお店。店の雰囲気は同じ学生街という事もあってか早稲田店と近いと思います。カレーはイエロー、グリーン、ブラック、ビーフ、レッド、ブラウンの中から選ぶことができます。中でも、辛いものが苦手な方にもおすすめなのがブラウンカレーです。このカレーは信大前店独自のメニューで辛味はほとんどなく、日本の家庭の味といった感じです。

#### ②メーヤウ桐店

信大前店に対して、通称“下メーヤウ”と呼ばれているこちらのお店。こちらのカレーは毎日日替わりで数種類ある中から自分で好きなカレーを好きなだけ食べられるバイキング方

式です。全種類食べたい方におすすめなのが、皿に対してライスを中心型に盛り、空いたスペースにカレーを盛るという方式です。この方法で一度に4種類のカレーを食べることが出来ます。

### 【行き方】

JR 松本駅から徒歩約3分の松本バスターミナル(アリオ松本の入っているビルの地下)の1番乗り場から信州大学経由のバスに乗り、メーヤウ桐店は「元原町」というバス停で下車し徒歩1分、メーヤウ信大前店は「元原町」から2つ目のバス停「大学西門」で下車し徒歩2分程度です。この2店舗は約400mしか離れていないので、両方行ってみるのもいいかもしれません。

メーヤウは早稲田店、そして今回ご紹介した信大前店、桐店に加えて東京の信濃町店、神保町店があるそうです。なぜ東京のメーヤウが松本に存在するのかは桐店の店主が信濃町店か早稲田店から暖簾分けしてもらった等諸説ありますが、真相は不明です。夏合宿で松本にいらした際にはぜひ、松本のメーヤウに行ってみるのもいいかもしれません。

## 近況報告

### 49期 小林 孝幸 (新潟県妙高市在住)

梅雨の蒸し暑さが続く毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。「今年は冷夏ではなく、例年通りの暑さの夏になる」という予報を聞き、暑さ嫌いの私は少し憂鬱な気分で夏を迎えています。

さて、今回岳文広報への寄稿にあたり、テーマが地方在住の各OB・OGの報告ということで、私の近況と地元のことについて少し紹介したいと思います。

2010年3月に大学を卒業後、2年間東京で学業を続けましたが、その後実家である新潟県妙高市に帰り、現在隣の上越市役所に勤務、社会人2年目を迎えています。

私の故郷・新潟県の上越地方。パッと場所を聞かれても、迷いなく地図でさせる方は少ないと思います。スキー・スノボをされる方なら妙高と言えば、歴史好きの方なら戦国武将・上杉謙信の本拠地と言えば分るでしょうか。

来年3月に北陸新幹線が開業し、新潟県にも『上越妙高駅』ができるということで、我が地元もその波に乗ろうと盛り上がりを見せています。・・・が、悲しいかな、他の富山県や石川県に比べるとどうもパツとしない、というのをよく聞きます。すぐに思いつくような観光資源の差が原因でしょうか。北陸で行くとすれば、金沢城や五箇山が有名ですからね。これ以上書くと市職員として失格なので止めておきますが、いち地元民として紹介できる、知名度のある特徴と言えば、お米とお酒と雪ぐらいでしょうか。

・・・と、観光地としてはイマイチな上越、新潟ですが、

住むにはとてもいい地域です。海あり山あり、自然が豊かで、旬の食材に欠かすことはありません。これからの時期は「黒崎の茶豆」がおいしいです。夏はしっかり暑く、冬はがっつり雪が積りますが、その分季節の変化が多彩で、「これぞ日本の四季」というのを、実家に戻ったこの2年間で改めて感じています。

上越は3方を山に囲まれていて、南には百名山の妙高・火打、その西には同じく百名山の雨飾、他にも米山や大毛無山など、近場だけでもいい山が多くあります。また、少し足を延ばせば、県内なら苗場山や越後駒ヶ岳、県外のコースでも谷川岳や尾瀬、そして立山連峰にも近い場所です。と、ここぞとばかりに多くの山を紹介しましたが、この中で登頂したことのある山はほんのわずかです。というのも、実家に戻ってきてからは山から遠ざかっており、最後に登ったのが一昨年に行った米山で、日帰りで行けて近くに温泉もあり気に入ったのですが、市役所に就職後「米山は市長がよく登るらしい」というのを聞いて以降敬遠するようになり今に至る、といった感じです。

ただ、全国の田舎町の多分に漏れず娯楽の少ない場所なので、近い将来山を再開することになるだろうと勝手に思っています。当面の目標は新潟県の百名山制覇、といったところでしょうか。

以上、改めて読み返すと、地元のいいところの紹介になっていませんが、何かの間違いで上越にお越しになる機会があれば、是非ご一報を。おいしいお酒を持って駆け付けます。

## OB 会幹事会からの連絡

### 年会費について

#### 45期 小西 麻子

会費の納入につきまして、今年度もご協力賜りありがとうございます。今回の会報では現時点で会費をまだ納入いただけていない方にのみ会費納入用紙を同封させていただきました。確認相違、ご不明な点等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡をいただければと思います。なお、今年度は52期までが納入対象者です。(53期は対象外)

以上、よろしくお願い申し上げます。

#### 1) 一会員につき年額 3000 円

(夫婦会員の場合には一世帯につき年額 3000 円)

#### 2) 本年は平成 25 年 11 月 23 日を平成 26 年度開始日とする

#### 3) 振込口座

〔当座〕 00230-8-30118

又は 〔普通〕 店番 008 口座番号 6690731

同封の赤い振込用紙で郵便窓口もしくはゆうちょ銀行ATMでお振込みいただくと手数料が無料です。ゆうちょ銀行備え付けの青い振込用紙もしくは他行からのお振込は手数料がかかりますのでご注意下さい。